

会議の実施日時	令和3年12月1日 13:30~14:30 令和3年度 第1回
協議事項1 (独立行政法人国立病院機構呉医療センター公的医療機関等2025プランの変更について)	
<p>○ 事務局より、独立行政法人国立病院機構呉医療センターにおいて、非稼働病棟の病床削減等に伴う公的医療機関等2025プランの見直しが行われたことを報告し、次の変更点等について概要を説明</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病床機能別病床数の見直し（高度急性期から急性期への転換）・ 非稼働病棟の病床削減・ 病床削減に伴う外来化学療法センターの移設・ 増床及び当該移設に係る広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業の活用 <p>【呉医療センター院長（補足説明）】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現在休棟中の病棟については、コロナ病棟に使うことも検討したが、人員の確保が難しいため、緩和ケア病棟をコロナ対応病棟として対応している。・ 外来機能に関しては、外来化学療法を行っている場所が非常に狭いため、何とか広い場所をとっていることを考えている。・ そのため、今回、休床中の55床を正式に返還して機能転換を行うこととし、転換にあたっては、自己資金に加え補助金を活用したいと考えているので、よろしく願います。 <p>《質問・意見等》</p> <p>【県アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病床削減率は1割にならないのか。機能分化・連携促進基盤整備事業については、どういう基準で補助金が出るのか。（県に対しての確認） <p>【県医療介護計画課】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業縮小ということで、病床機能以外への用途変更に係る補助金の活用を予定されており、10床以上の病床削減が対象となる。 なお、ダウンサイジング補助金については、病床過剰の機能の病床を10%以上削減した場合が対象となる。 <p>【県アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none">・ ダウンサイジング補助金については、休床の病床は対象にならないので、機能分化・連携の補助金を使うことはよいと思う。 <p>事務局及び呉医療センターからの説明並びに質疑応答のうえで、広島県機能分化・連携促進基盤整備事業の補助金活用も含めた、独立行政法人国立病院機構呉医療センター公的医療機関等2025プランの変更について調整会議において確認・共有した。</p>	

協議事項 2 (呉共済病院公的医療機関等 2025 プランの変更について)

- 事務局より、国家公務員共済組合連合会呉共済病院において、非稼働病棟の病床削減等に係る公的医療機関等 2025 プランの見直しが行われたことを報告し、次の変更点等について概要を説明
- ・ 非稼働病棟の運用方針の変更 (再稼働から病床削減に変更)
 - ・ 病床削減後の病床機能別病床数の見直し (急性期から回復期への転換)
 - ・ 病床機能の転換に係る広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業の活用

【呉共済病院長 (補足説明)】

- ・ 当院では、コロナ対応については、結核病棟を使っている。閉鎖病棟であり、完璧な感染防御の上で、呉地域のためのコロナ対応を行っている。
- ・ 結核病棟が 46 床有る。結核患者はかなり減っており、県内の他の病院 (吉島、東広島、福山) で数的には十分足りるような状況であるが、呉地域のためには感染病床のようなところが必要だと考えており、結核病床の一部、22 床を削減し 24 床としたいと考えている。
- ・ 地域包括ケア病棟の問題もあるが、呉地域では人口減少がかなり激しい。呉地域の急性期の病院は多く、逆に回復期の病院は 250 床程度少ないという状況のため、当院としても 39 床急性期を減らして回復期を 39 床増やしていきたいと考えており、可能であれば、補助金も活用したい。
- ・ 診療報酬改定の問題もある。前回改定では、400 床以上の病院は地域ケア病棟を作れないとされたが、今回の改訂でどうなるかわからないため、それも見据えて、今年度中に対応するのか、来年度中に対応するのかということも検討していくこととしているので、よろしく願います。

《質問・意見等》

【県アドバイザー】

- ・ コロナのために確保している病床を何時までの期間、どういう形で運用するかということに皆さん非常に困っている状況でないかと思う。
国・県は、公的医療機関にコロナ病床の確保を要請しているわけであるから、補助金は出ているけれども、今後どういう運用がよいのかということを広島県全体でもう少しよく話をしたい。

事務局及び呉共済病院からの説明並びに質疑応答のうえで、広島県機能分化・連携促進基盤整備事業の補助金活用も含めた、呉共済病院公的医療機関等 2025 プランの変更について調整会議において確認・共有した。

協議事項3（佐藤病院（医療法人エム・エム会）の休床について）

- 事務局より、佐藤病院において1年以上病棟が非稼働となっていることについて、概要を説明
 - ・ 1年以上非稼働となっている経緯
 - ・ 今後の運用見通し（新病院開設後の病床の運用方針、人員体制の見通し）
 - ・ 呉圏域における機能別病床数の状況

【医療法人エム・エム会理事長（補足説明）】

- ・ 佐藤病院の早期の再開を目指していたが、法人合併の翌月、令和3年1月にマッターホルンリハビリテーション病院でクラスターが発生し、全ての事業計画が計画通りには進まない状態が現在も続いている。
については、来年度に、2病院を統合合併し、新病院に移行することを計画している。
- ・ 複数医療機関における10%以上の統合再編について利用できる統合支援給付金の活用が可能であればお願いしたいと考えている。

《質問・意見等》

【県アドバイザー】

- ・ 統合再編の資金を活用することは、休床にしていた病床を再編する際にいろいろな状況があったことはよく分かるので、大丈夫だと思うが、県がどう解釈するのか分からないところがある。
- ・ 削減した12床を介護医療院にするということであるが、介護医療院の数はどういう考えで決められたのか。

【医療法人エム・エム会理事長】

- ・ 介護医療院の数については、保健所に相談し、決定ではないが、大丈夫だろうということで計画している。

【県医療介護計画課】

- ・ 複数の医療機関の再編に係る補助金については、理論付けが難しいところもあり、病院側と協議中である。
引き続き協議しながら整理していく。

【県アドバイザー】

- ・ 再編統合に苦勞されている状況であるので、是非補助金が使えるように考慮していただきたい。

事務局及びエム・エム会からの説明並びに質疑応答のうえで、佐藤病院の休床について調整会議において確認・共有した。

報告事項 1（地域医療構想の実現に向けた今後の方針について）

- 事務局より、「地域医療構想の実現に向けた今後の方針について」（令和3年6月29日付け医療機能強化担当発出）について概要を説明

《質問・意見等》

特になし

報告事項 2（地域で不足する外来医療機能を担うことに係る申出について）

報告事項 3（医療機器の共同利用計画について）

- 事務局より、次の2医療機関から地域で不足する外来医療機能を担うことに係る申出書の提出、3医療機関から医療機器の共同利用計画書の提出があったことを報告

① 外来医療機能を担うことに係る申出書

- ・ たなべ内科クリニック
- ・ しんこころのクリニック

② 医療機器の共同利用計画書

- ・ 独立行政法人労働者健康安全機構 中国労災病院
- ・ 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
- ・ 医療法人社団はまい会 大君浜井病院

《質問・意見等》

特になし。